

## 第2回ジオパーク下仁田協議会学術部会次第（報告）

日 時 令和3年7月30日（金）午後6時00分～

場 所 下仁田町自然史館

所 属	氏 名	出・欠	所 属	氏 名	出・欠
群馬県立自然史博物館	高 桑 祐 司	出	下仁田ジオパークの会	大河原順次郎	出
下仁田自然学校	中 井 均	出		里 見 立 夫	出
下仁田町歴史館	山 田 誠 司	出	下仁田町自然史館	中 村 由 克	出
中小坂鉄山研究会	原 田 喬	欠	下仁田町自然史館	赤 岡 明	出
群馬大学名誉教授	吉 川 和 男	出	下仁田町自然史館	関 谷 友 彦	出

### 1 開 会

### 2 協議事項

#### （1）下仁田ジオパークのストーリー・テーマの検討について

下仁田の各サイトからどんなストーリーが読み取れるかについての3本柱については別紙1のとおり承認されました。また、表現方法については、下記の意見が出ました。

- ・テーマや表現については、分かりやすいことは大事だが、誤解を生む表現については避けた方がよい（例は下記のとおり）

#### （テーマ1）・「この山、どっから来た」

⇒ 山そのものが動いてきたわけではない

「関東山地ができる時に、遠くから滑って移動してきた」

⇒関東山地の形成とクリッペの関連性はない

#### （テーマ2）太平洋と日本海を分けた火山の跡

⇒海を分けたのは荒船や妙義の火山そのものではない。

• 溶岩が崩れてできた世界遺産 荒船風穴

⇒溶岩ではない

(テーマ3)・鉄鉱石や石灰石が道路や鉄路で運ばれ・・・

⇒鉄路で運ばれたのは、鉄製品？

⇒ガイドの分かりやすい表現に学識専門家としてフォローしながら、今後  
も改善を重ねていく。

• テーマ1 内容について

「根なし山」で一番大事なものは何か？ 昔の大変動を記録していること。  
これが伝わる表現にしないとよくない。

今見える地形(変わった形)から、根なし山の大変動に話を繋げるストーリーがいい。

• テーマ2 内容について

分水嶺を強調するのであれば、荒船山の表現と妙義は分けた方がよい。

西ノ牧鉱山や中丸鉱山についてもここでテーマとして紹介した方がいい  
のでは？

• テーマ3 内容について

⇒川井の断層をここに入れるか？(3つのテーマ以外で紹介してもいいの  
では)

あじさいは植生というより園芸種なのでは？むしろネギ畑の方が段丘  
地形を利用した植生と言えるのでは？

歴史の文章については、時代が順番ばらばらになっているので、古いも  
のから新しいものに統一下ほうがよい

• みどころについて

パンフに掲載する内容はもう一度精査が必要

(例えば、テーマ①のカタツムリについて実際に現場で見られるか？)

石灰岩については、好石灰岩植物について

⇒今回いただいた意見を踏まえて、再びガイドと協議をし、パンフに掲載する文章を検討することにしました。

(2) 下仁田ジオパークアクションプラン（2022～2027）について別紙2のとおり原案を示し、主には下記意見が出されました。

### ②保全・保護体制強化

- ・各サイトにどういう法的な網を確認までは、済んでおり管理者とのどのように情報共有していくのがいいかが課題。
- ・国定公園については、観光連携は町の観光部署が携わっているものの保全の観点までは不完全。なるべくジオパークサイドからの情報共有をしていく必要がある。

### ③情報発信の強化

学術奨励金の報告会の開催など。研究成果の情報発信についても記載した方がよい。

学習意欲のある人への情報発信は学校の授業の調べ学習に使えるような情報発信などターゲットを具体的にする。

### ④防災への取り組み

現状に、令和元年台風の影響により地域の人に防災意識は出きている。ので、表現方法を変える。

- ・防災は誰がやるのか？町防災担当者との連携が重要。  
表現の方法がジオパークとして町にどう貢献するかを記載した方がよい。具体的には過去の災害記録をまとめたり、その痕跡を整理するなど。
- ・学校教育での防災の観点を計画に入れてはどうか。  
⇒教育部会にも同様の項目を設ける。

⇒出された意見を基に修正し、10月協議会までもう一度専門部会で検討します。

(3) 下仁田ジオパーク再認定審査の行程（案）について

別紙3のとおり、審査行程について確認し、今回のストーリー・テーマ検討の結果は、現地調査初日の行程取り組み説明の中で、部会長である高桑さんに説明していただくことになりました。

3 次回の部会開催について